

8月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市における2017/2018シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

主な結果 横浜市における流行は、山形系統のB型ウイルス、AH1pdm09ウイルスおよびAH3型ウイルスが混在し、昨シーズン同様に長期間の流行が続きました。病原体定点ウイルス調査での分離・検出数の割合は、山形系統のB型ウイルスが43.7%、AH3型ウイルスが34.8%、AH1pdm09ウイルスが21.1%、ピクトリア系統のB型ウイルスが0.4%でした。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）感染症のまとめ -2017年分離株について-

主な結果 カルバペネマーゼを産生する29株のうち、IMP-1型が26株とそのほとんどを占め、他はOXA-181型が2株、NDM-5型が1株でした。IMP-1型は、関東地方で多く分離される型になります。OXA-181型およびNDM-5型は主に海外で分離されている型であり、これらの菌株が分離された患者にはインドやバングラディッシュなどへの渡航歴があったことから海外からの持ち込みが示唆されました。

残留農薬検査（平成30年4月～6月）

主な結果 市内産農産物38検体について検査を行ったところ、11検体から農薬が検出されました。また、国内産農産物5検体について検査を行ったところ、2検体から農薬が検出されました。いずれも残留農薬の規格基準値を超えるものではありませんでした。

室内空気環境調査結果（平成29年度） -高齢者福祉施設-

主な結果 市内7施設の温度、相対湿度、二酸化炭素濃度について測定を行ったところ、冬季に加温不足の施設が散見されました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成30年7月は、大麻（マリファナ）、疥癬（かいせん）、B群レンサ球菌感染症、熱中症に関するページのアクセスが多くみられました。総件数は147,301件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。